



浦和大里小学校だより

5月号 令和7年4月30日発行

教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成



学校を楽しくする

校長 中野 緑

学校の前の通りではハナミズキがピンクや白い花を咲かせています。新年度がスタートして1か月がたちました。子どもたちに「新しいクラスはどうですか？」と聞くと、ほとんどの子どもたちから「最高です!」「楽しいです!」と前向きな声が返ってきます。ほっとする一方で、疲れていたり、不安な気持ちを隠して登校したりしている子どももきつという、と思っています。私自身、そのような時期がありました。小学校卒業間近の頃の人間関係のトラブルから、「中学校で人間関係をうまく作れるだろうか」「先生は自分のことを理解しようとしてくれるだろうか」「学ぶ内容も難しくなるが大丈夫だろうか」と、次々と浮かぶネガティブな考えに支配されてしまっていたことを思い出します。

そんなこんなで緊張して入学した中学校で、わたしは目立たないよう気配を消して過ごしていました。岸町小、浦和別所小、浦和大里小の3つの小学校から集まり、1学年10クラスもある大きな中学校でしたが、人間関係づくりで臆病になっていたわたしは、自分から話しかけて友達をつくることができませんでした。ある日、休み時間に一人で本を読んで過ごしていると、担任のK先生が声をかけてくださいました。前の年に兄を担任してくださっていたこともあり、家族の話や習い事の話など、他愛もない会話をするうちに、少しずつ気持ちがほぐれて、甘えたい気持ちが出てきたように思います。「人間関係はめんどくさいから一人でいい」「授業もおもしろくない」「学校は楽しくない」などと、生意気なことを言った記憶があります。

わたしの話を黙って聞いてくださったK先生は話を聞き終えとおっしゃいました。「学校は楽しいところじゃないの。自分で楽しくするの。」驚きました。そして、「学校は楽しいよ」と小学校1年生の時教わったまま、中学生になるまで何も成長していなかった自分を少し恥ずかしく思いました。学校が楽しくないのであれば、その原因を考えて、その解決のために行動する力はあるはず。誰かに何かをしてもらうことを期待するだけでなく、自分から行動すればよいのだとようやく理解したのでした。

とはいえ、小学校は、先生の力によるところが大きいものです。子どもたちが喜んで登校し、楽しく学校生活が送れるように、知恵を出し合っていきます。不安な気持ちに気付けるよう、感度を高める努力をしていきます。その積み重ねで、今年も、「こんなことをしてみたい!」と学校を楽しくするアイデアを子どもたちが語れる浦和大里小学校を目指します。

5月末からは個人面談が始まります。子どもたちの成長につなげるため、ご家庭と学校と連携を深めるよい機会としましょう。なお、子どもと向き合う時間を増やすため、1学期の通知票は成績のみとし、学校生活の様子等は個人面談でしっかりとお伝えしていきます。